

進捗状況の概要（1ページ以内）

学内の実施体制については、平成27年4月に設置した学長をセンター長とする「グローバル戦略推進センター」（以下、CGS）において、センター長である学長のリーダーシップの下、全学的な教学マネジメントの下で機能強化戦略を効果的に実行・支援する体制を構築した。

中心となる取組は、以下のとおり。

- 取組Ⅰ：多様な長期学外学修プログラムの実施を可能とする学事暦（クォーター制）の導入
- 取組Ⅱ：入学試験合格者に対する最長1年間の入学猶予制度（ギャップイヤー制度）の導入
- 取組Ⅲ：長期学外学修プログラム及び先進的なアクティブ・ラーニング教育手法の開発
- 取組Ⅳ：学外機関との連携による長期学外学修プログラムの持続的な実施体制の構築

取組の成果は、以下のとおり。

- ・【取組Ⅰ】平成29年度新設科目においてクォーター制学事暦を実施し、当該科目の運用状況を検証した上で、平成30年度にはグローバル教育科目全体へ適用することとした。今後、クォーター制の拡大とともに、春・秋クォーターに講義科目を集中させることにより、夏・冬クォーターに留学やインターンシップなどの学外学修に参加しやすい環境を整備することができ、学生の長期学外学修プログラムへの参加率向上が期待される。
- ・【取組Ⅱ】全国的にも前例のない入学猶予制度となる「ギャップイヤープログラム」の導入に向けた検討を進め、平成30年度入学生から試行実施することを決定した。また、ギャップイヤーを組み入れた新たな主専攻プログラム「グローバルコース」を平成33年度から実施することを決定し、より体系的で教育効果の高い長期学外学修プログラムの展開が可能となる体制を構築した。
- ・【取組Ⅲ】本学のプログラム教育手法や教育効果を学内外に広く情報提供し、普及させるための「アクティブラーニングシンポジウム」やFD・SDワークショップを実施し、今後の展開や具体的方策・課題等について議論を深めた。
- ・【取組Ⅳ】寄附金により「グローバルブリッジ教育プログラム」の奨学金支援を実施するとともに、同窓会からの支援により「学生起業サポートルーム」の環境整備を行った。
- ・【取組Ⅳ】外部有識者により構成される外部評価委員から意見聴取を行い、得られた提言等については、平成30年度以降の本事業の実施に反映させていくこととした。

補助期間終了後の継続発展に向けた取組について、本補助事業は本学のグローバル教育を担うCGSにおいて、全学的な教学マネジメントの下で実施している。CGSにおいてブリッジ教育プログラムを担う関係教員、事務局が定期的に情報共有を図り連携を緊密にするため、「ブリッジ教育プログラム推進連絡会議」を設置し、円滑な事業の遂行と達成状況の検証（自己評価）を可能としている。

また、本補助事業を推進するための専門人材である2名のコーディネーターについて、補助期間終了後は、学内予算及び外部資金等を財源として雇用を継続し、事業を推進する予定である。

学内外への波及効果は、以下のとおり。

- ・官民協働海外留学支援制度「トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム地域人材コース」に採択された北海道海外留学支援事業を担う「北海道創生・海外留学支援協議会」においてCGS グローカル教育部門長が地域コーディネーターとして参画し、本学の海外留学派遣や地域インターンシップ実施のノウハウを生かして、プログラムの企画・実施に携わることにより、本学のプログラムを北海道全体に波及させた。
- ・本学におけるアクティブラーニングの教育手法について初中等教育現場に、広く周知するためのシンポジウムを開催した（平成29年9月2日）。さらに、アクティブラーニングの地域社会への普及・拡大させるため、本学の提案により、北海道地区FD・SD推進連絡協議会において平成30年9月から「アクティブラーニング研究会」を発足することを決定した。